

5) 工事による副次的影響を復元した箇所における植生状況

(1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.2.3-51 に示した。

表 6.2.3-51 調査期間一覧

地点/季節	春季	夏季	秋季	冬季
N-4.1(西側、北西側の土砂置場)	平成 29 年 6 月 3 日	平成 29 年 9 月 14 日	平成 29 年 11 月 1 日	平成 30 年 2 月 1 日
N-4.2(南側、北側)	平成 29 年 6 月 3 日	平成 29 年 9 月 14 日	平成 29 年 11 月 1 日	平成 30 年 2 月 1 日
既存道路北側作業ヤード	—	平成 29 年 8 月 23 日	平成 29 年 10 月 14 日	平成 30 年 2 月 14 日
H 付近の作業ヤード	—	平成 29 年 8 月 23 日	平成 29 年 10 月 14 日	平成 30 年 2 月 14 日
G 直近の作業ヤード	—	平成 29 年 8 月 24 日	平成 29 年 10 月 14 日	平成 30 年 2 月 15 日

注) — は未実施を示す。

(2) 調査方法

工事による副次的影響を復元した箇所における植生の回復状況について、写真撮影による記録を行った。

(3) 調査地点

調査地点は図 6.2.3-74、図 6.2.3-75 に示した。

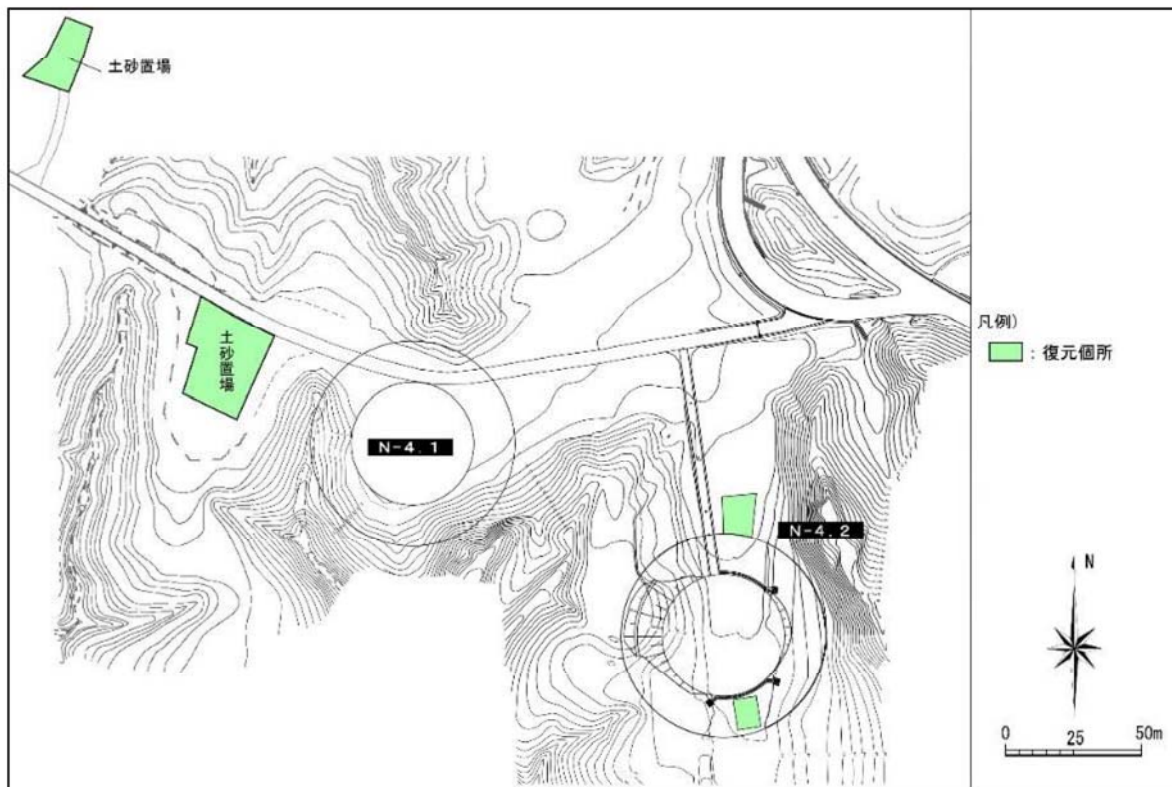


図 6.2.3-74 工事による副次的影響の復元箇所調査地点(N-4.1、N-4.2)

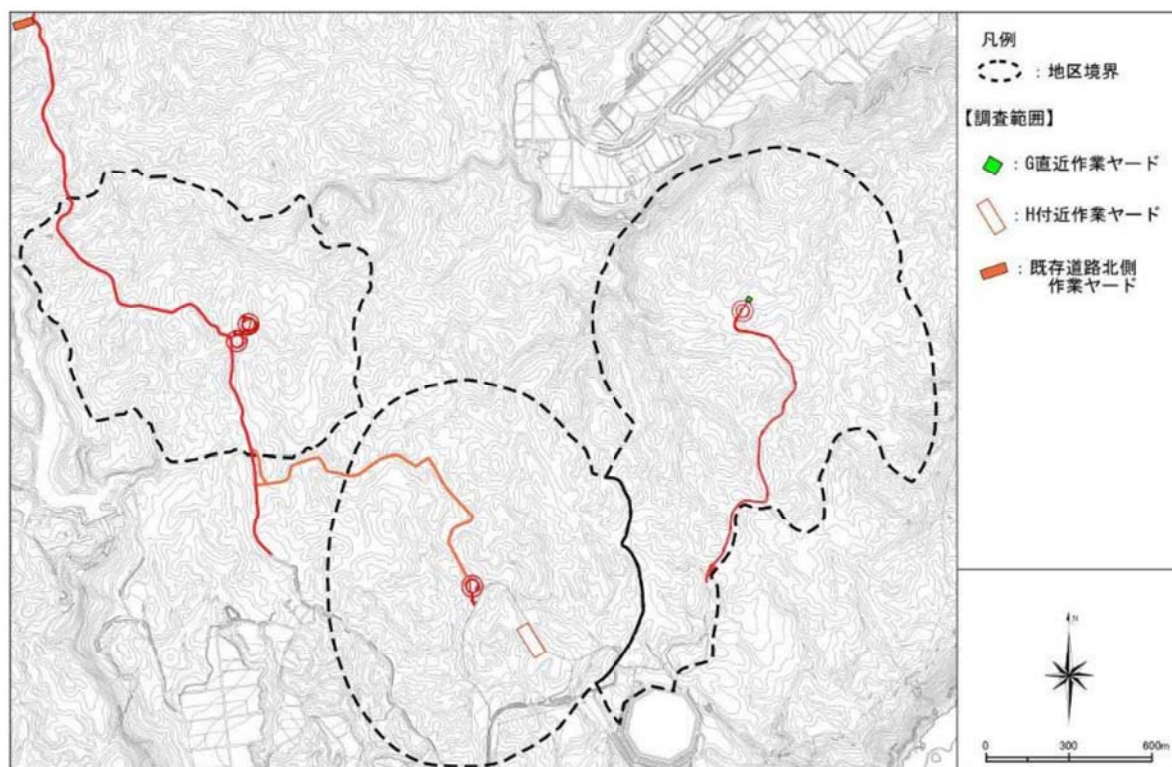


図 6.2.3-75 工事による副次的影響の復元箇所調査地点(作業ヤード)

(4) 調査結果

a) N-4.1 (西側、北西側の土砂置場)

復元箇所は張芝が行われており、草丈0.5m程度の草地環境となっている。
復元箇所の植生状況を図 6.2.3-76、図 6.2.3-77 に示した。

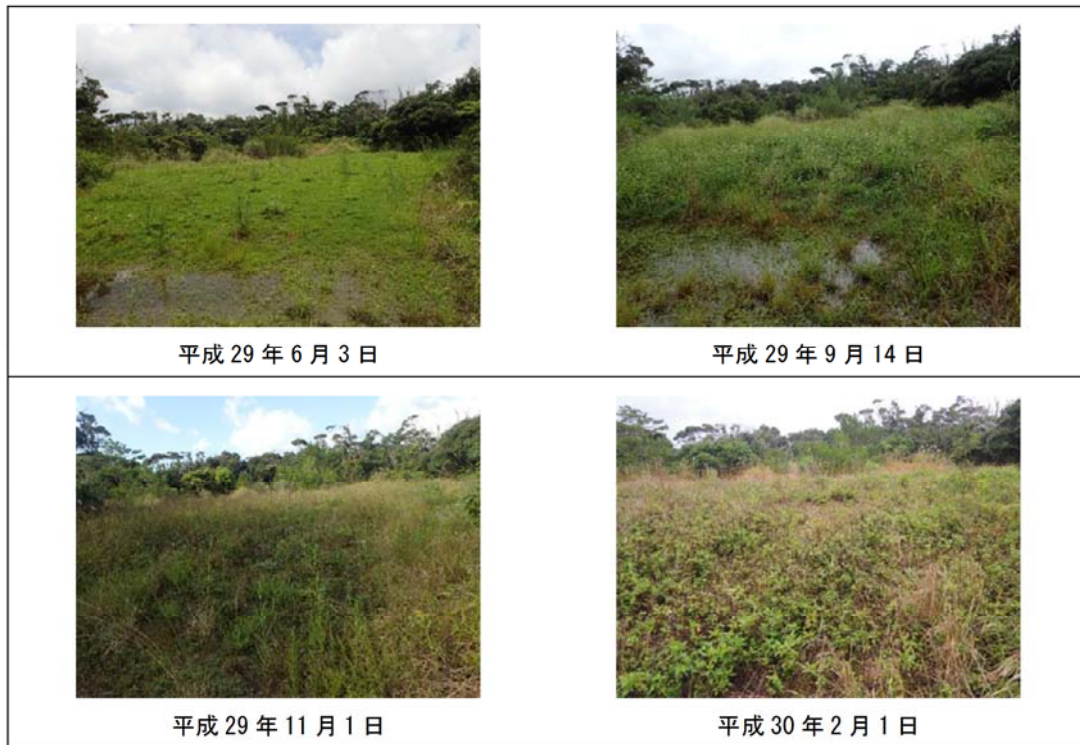


図 6.2.3-76 工事による副次的影響の復元箇所の状況 (N-4.1 北西側 土砂置き場)

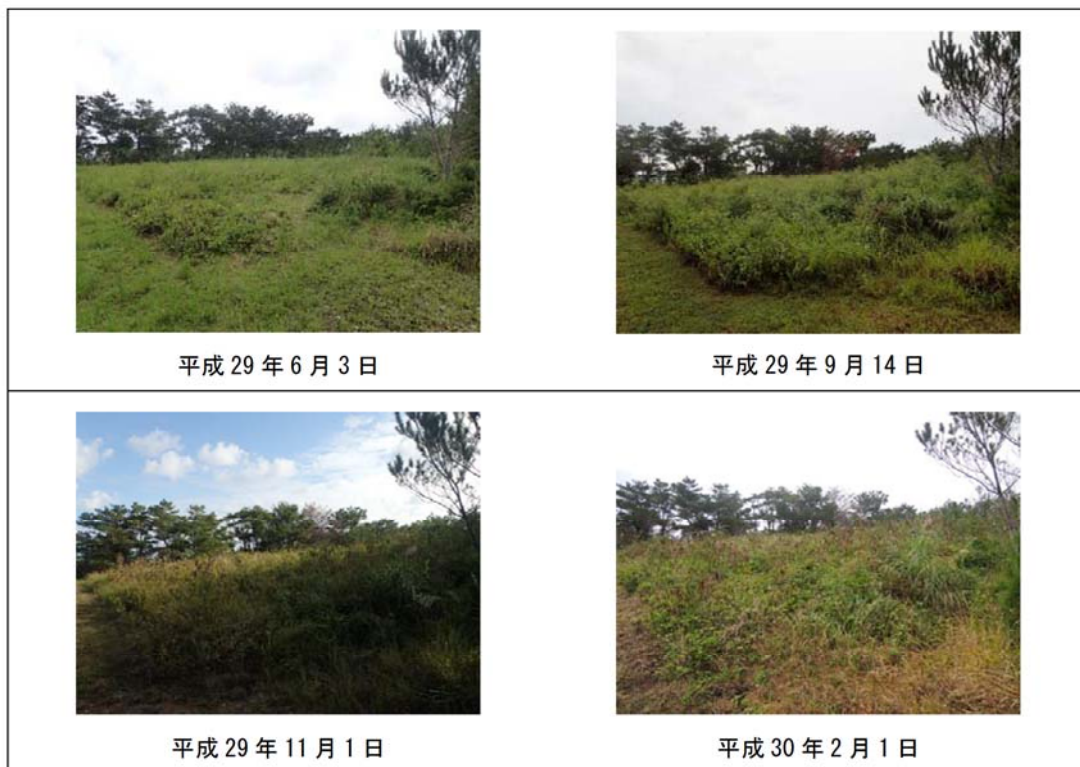


図 6.2.3-77 工事による副次的影響の復元箇所の状況 (N-4.1 西側 土砂置き場)

b) N-4.2(南側、北側)

復元箇所は張芝が行われており、草丈0.3m程度の草地環境となっている。
復元箇所の植生状況を図 6.2.3-78、図 6.2.3-79 に示した。

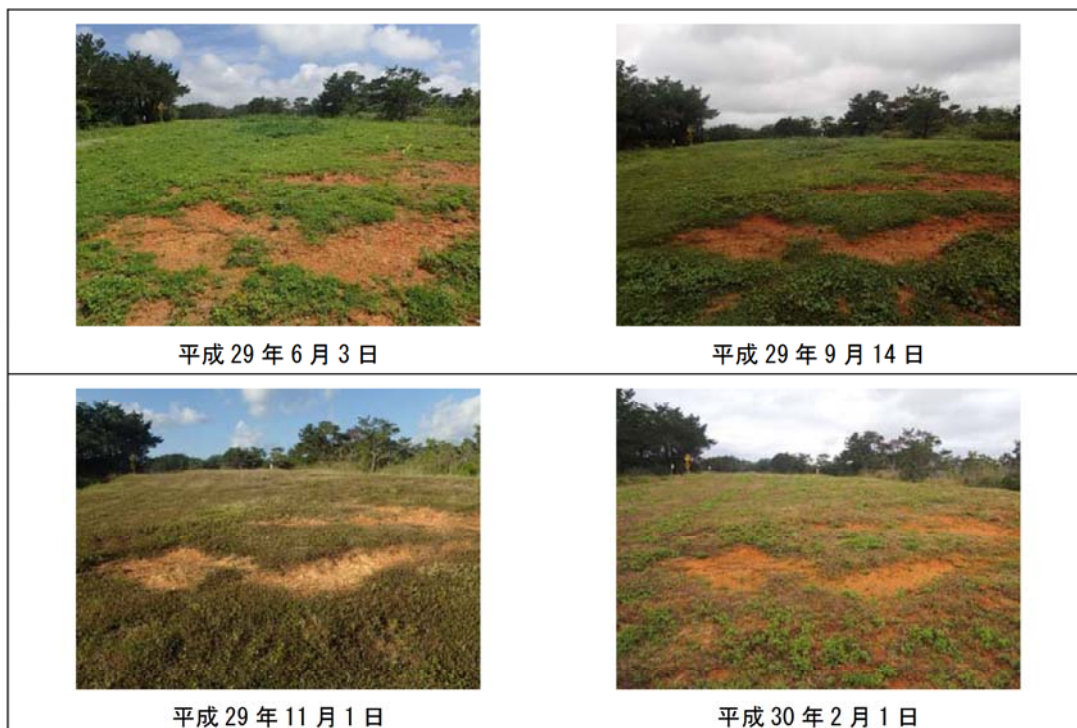


図 6.2.3-78 工事による副次的影響の復元箇所の状況(N-4.2 北側)

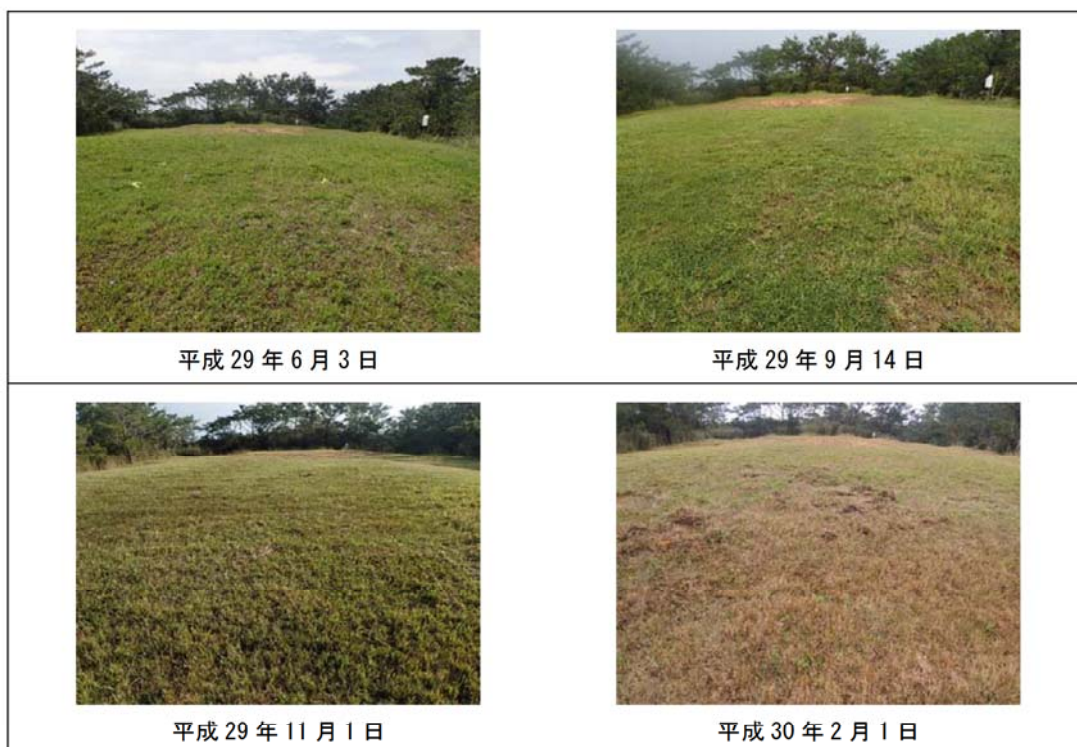


図 6.2.3-79 工事による副次的影響の復元箇所の状況(N-4.2 南側)

c) 既存道路北側作業ヤード

復元箇所は碎石敷工が行われている。平成30年2月時点において、植生は確認されなかった。

復元箇所の植生状況を図6.2.3-80に示した。



図 6. 2. 3-80 工事による副次的影響の復元箇所の状況(既存道路北側作業ヤード)

d) H 付近の作業ヤード

復元箇所は砂利や残土があるため、赤土流出防止対策の浸食防止剤の吹付処理が行われている。平成30年2月時点において、植生は確認されなかった。

復元箇所の植生状況を図6.2.3-81に示した。



図 6. 2. 3-81 工事による副次的影響の復元箇所の状況(H 付近の作業ヤード)

e) G 直近の作業ヤード

復元箇所は、土壌流出防止対策のため、チップ材によるマルチングが行われている。平成 30 年 2 月時点において、植生は確認されなかった。

復元箇所の植生状況を図 6.2.3-82 に示した。



図 6.2.3-82 工事による副次的影響の復元箇所の状況(G 直近の作業ヤード)